

平成29年3月16日

那須烏山市議会議長 渡辺 健 寿 様

総務企画常任委員会委員長 沼田 邦彦

予算審査結果報告書

本委員会に平成29年3月7日に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定したので、那須烏山市議会会議規則（平成17年那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により報告します。

- 1 審査期日 平成29年3月8日（水）及び10日（金）
- 2 審査場所 那須烏山市役所 南那須庁舎 第一委員会室
- 3 出席委員 沼田邦彦、滝口貴史、相馬正典、川俣純子、佐藤昇市、中山五男
- 4 説明のための出席者
会計管理者兼会計課長 羽石徳雄、総合政策課長 坂本正一、まちづくり課長 佐藤博樹、総務課長 清水敏夫、税務課長 小口久男、議会事務局長 水沼透 他関係職員
- 5 審査事項 本委員会の所管する総合政策課、まちづくり課、総務課、税務課、会計課、議会事務局、監査委員、選挙管理委員会及び固定資産評価審査委員会の平成29年度那須烏山市の一般会計及び特別会計歳入歳出予算
- 6 審査結果 本委員会が付託を受けた一般会計及び特別会計の予算については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。ただし、次のことについて要望し、意見を付することとします。

総合政策課

- ・当市は他自治体、大学、金融機関やその他の民間企業などと数多くの協定を結んでいるが、協定は結ぶことが目的ではない。継続的に有効に機能するように、しっかりと内容を検証されたい。
- ・各分野での市民の活躍の様子など明るい話題をさらに積極的に広報紙に掲載し、市民意識の高揚、一体感の醸成に寄与されたい。一方で、市の抱える課題を分かりやすく公表し、その状況を市民に理解していただくことも広報紙の大切な機能の一つである。良いことばかりでなく、市のありのままに掲載されたい。
- ・ふるさと応援寄附金については、単に寄附金をいただくだけの施策とせず、例えば交流人口の拡大に繋がる体験型の返礼品を充実させるなど、趣旨を踏まえた上での積極的な活用を心がけられたい。
- ・極めて厳しい財政状況の中にあって、あれもこれも取り組むことは難しい。新規事業の導入は既存の事業の廃止縮小を前提とするなど、財政規模の適正化を常に念頭に置かれたい。また、他市町で実施しているから、といった安易な判断による事業導入は慎み、当市にとっての必要性を十分に見極められたい。一方で歳入にあっては、国県の有利な事業を活用し、財源の確保に努められたい。

まちづくり課

- ・新設されたまちづくり課であるが、担当業務が多面的で広範囲にわたっていることもあり、まだまだその本領が発揮されていないように見受けられる。新年度においては、関係各課と十分に調整し、さらに地方創生を力強く進められることを期待する。
- ・新年度から実施されるデマンド交通土曜運行実証実験は、あくまで試験的な取り組みとのことである。実施に際しては、利用者にこのことを十分に周知し、混乱が生じることがないように努められたい。
- ・まちづくり団体関係の補助金の交付に際しては、当初掲げた計画どおり事業が展開されているか、見込んだ成果が生み出されているか、十分に審査、検証を行い、安易に継続と判断することのないよう心されたい。
- ・地域おこし協力隊には大いに期待を寄せている。隊員が任期満了時に確実に定住・定着し、当市の地域活性化の一翼を担う存在に成長するように指導・支援を施されたい。

総務課

- ・電子入札制度について、年間300万円を超える維持管理経費は決して安いものではない。有効活用できるよう工夫して運用されたい。また、導入の結果を十分に検証し、もし想定する効果が得られないようであれば、制度の見直しも検討されたい。
- ・ここ数年、退職者が多く、市職員の若返りが急激に進んでいる。若く意欲のある職員を上手に活かし、育て、市役所全体で明るく活気ある職場となるよう努力されたい。

税務課

- ・平成28年度から確定申告受付を1会場で実施することとなった。当初は、相当の混乱が心配されていたが、大きなトラブルもなく、結果的に経費削減や事務の効率化に繋がったことは評価に値する。今回の取り組みで生じた課題や問題点をよく精査し、これを次年度以降に反映させ、さらにスムーズで効率的に申告受付が実施できるよう努められたい。